

(7) 北 陸



北陸地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところ弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

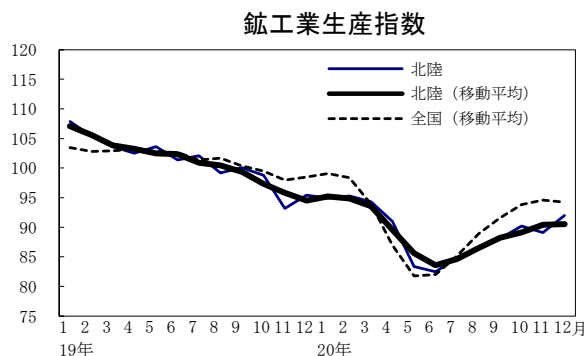
前回からの主要変更点

	前回 (令和2年12月)	今回 (令和3年3月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	↓
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	↑
個人消費	持ち直している	このところ弱含んでいる	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

10-12月期の鉱工業生産は、生産用機械は半導体製造装置等が増加したこと、繊維は染色整理等が増加したこと等により、前期比4.5%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	15.3	2.3	▲3.0	▲1.9	5.8	▲4.6
化学	14.0	2.1	0.9	10.6	▲19.0	11.8
生産用機械	11.8	▲0.6	4.9	▲16.9	22.4	13.9
金属製品	8.1	0.3	1.8	1.3	▲0.8	▲4.4
繊維	6.9	▲12.8	5.0	5.7	1.1	0.7
鉱工業	100.0	1.1	4.5	2.4	▲1.2	3.3

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10-12月期、12月は速報値。

2. 個人消費の動向

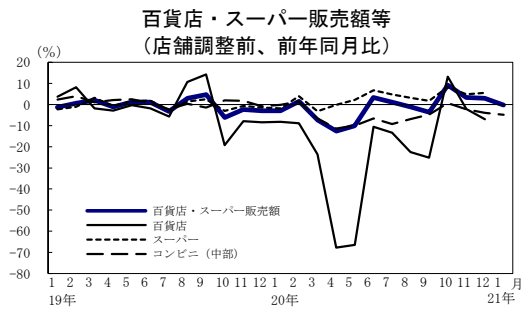
個人消費はこのところ弱含んでいる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDE I (消費))

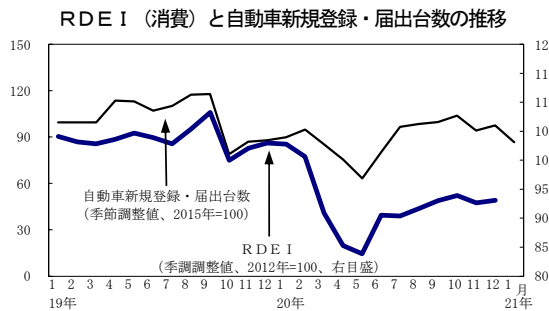
10-12月期は前期比1.7%増となった。月別にみると、10月は前月比1.0%増、11月は同1.3%減、12月は同0.4%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比4.9%増となった。月別にみると、10月は前年同月比9.1%増、11月は同3.4%増、12月は同2.9%増となり、増加幅が縮小した。
百貨店は、10-12月期は前年同期比0.4%減となった。
スーパーは、10-12月期は同6.1%増となった。



	2020年 10-12月	2020年 10月	2020年 11月	2020年 12月	2021年 1月
RDE I (消費*1)	1.7	1.0	▲1.3	0.4	—
百貨店・スーパー(*2)	4.9	9.1	3.4	2.9	▲0.2
百貨店(*2)	▲0.4	13.2	▲2.1	▲7.0	—
スーパー(*2)	6.1	8.3	4.8	5.5	—
コンビニ(*2)	▲1.8	0.7	▲2.2	▲4.0	▲4.9
乗用車(*3)	16.6	31.7	9.0	10.7	▲4.6
(季節調整値) (*3)	0.3	4.2	▲9.3	3.5	▲11.1

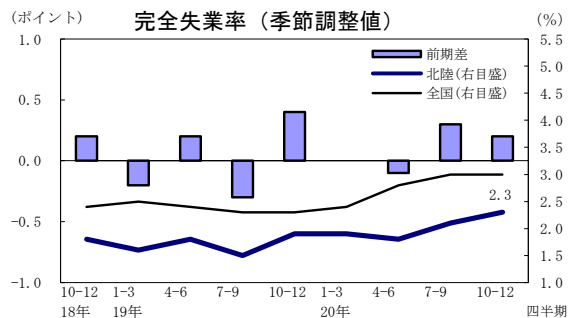
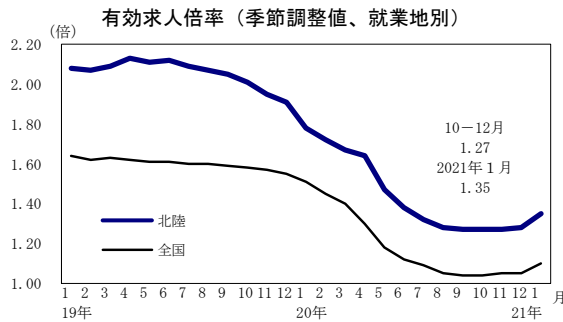


- (備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。
2021年1月は速報値。
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて算出、季節調整。

